

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 23 日現在

機関番号：14302

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2011～2012

課題番号：23700697

研究課題名（和文） 体育授業の観察記録法を学習するための映像メディア教材の開発

研究課題名（英文） Manufacture of the Teaching Material Consists of Movies for the Learning of Systematic Observation Methods for Physical Education Class

研究代表者

小松崎 敏 (KOMATSUZAKI SATOSHI)

京都教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：90367912

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、大学生に対する体育教師教育、教職実践演習や、現職教員の経年時研修等で活用可能な、体育授業を記録するための観察法とそのカテゴリーを学習しトレーニングをするための、DVD メディア教材を作成することであった。作成されたメディア教材には、体育授業における期間記録法の考え方とその方法に関する内容が収録されており、大学における教職科目や、教員免許状更新講習等で活用することが確認できた一方、その有効性を十分に検証するまでには至らなかった。

研究成果の概要（英文）：In this study, a DVD was created containing the category of Duration Recording System for the Physical Education and the movie of how to use of the DRS-PE. This DVD was utilized for various situations, such as some lectures on Physical Education Teacher Education at the University of Education, or a short course for renewing educational personnel certificates that requires in-service teachers. The usefulness of this DVD will be compare with other Learning Method of the DRS-PE in the future.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
交付決定額	2,500,000	750,000	3,250,000

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学 身体教育学

キーワード：体育授業 授業観察法 メディア教材 体育科教育 体育教師教育

1. 研究開始当初の背景

(1) 学校における教育活動のアカウントビリティが問われている今日、「やりっぱなし」の授業は過去の産物として切り捨てていかなければならない。納税者に対するアカウントビリティを果たしていくためには、自らの授業実践を反省的に振り返って、学習の成果を確かめ、さらによい授業のあり方を模索する教師が必要とされている。このような反省的な授業実践のためには、毎授業の様態を記録し、それをもとに振り返りを行なうということが重要であると考えられる。

(2) 授業を振り返るため開発されてきた「道具」として、授業評価法と授業記録法がある。特に授業記録法については、教師と子どもの会話を逐一記録していく、T-C 授業記録法(逐語記録)が一般的であった。近年のデジタル技術の進歩によって、授業の様態は IC レコーダーやビデオカメラ、そしてより高画質なハイビジョンビデオカメラ等によって克明に記録することが可能になったことから、それらの音声や映像をもとにテープ起こしを実施し、T-C 授業記録を完成させる。また、研究授業などではほとんどの場合ビデオ撮影が実施されており、討論会において映像を見ながら特徴的な場面で一時停止させ、教師の信念や考え方を語らせるといった「ストップモーション方式」のディスカッションもなされる。このように、反省的な授業実践のためには、毎授業の様態を記録し、それをもとに振り返りを行なうということが重要であると考えられる。しかし残念なことに、T-C 授業記録法に代表される授業記録には膨大な時間と手間がかかるという欠点がある。

(3) このことを踏まえ、筆者はこれまで、体育授業をなるべく簡便に記録する方法を検

討・考案してきた。中でも、授業時間中の時間配分を記録することができる「体育授業の期間記録法」に着目し、PC 等のデジタル機器を用いて体育授業の時間配分を簡便に記録する方法を開発してきた。これらを用いることによって、体育授業時間配分をきわめて簡便に記録することができ、またその結果をわかりやすくビジュアル化することが可能になった。

(4) しかしながら、道具は作成したものの、学生や教員がそれを使いこなすためには、観察カテゴリーを熟知し、見分けるための「眼」を養う必要があった。つまり、期間記録法で定義するところの、インストラクション場面 (I : 教師が説明、演示する場面)、認知的学習場面 (A 1 : グループでの作戦会議や反省などの場面)、運動学習場面 (A 2 : 運動を行なう場面)、マネジメント場面 (M : 用具の準備片付けや移動などの学習成果には直接関与しない場面) という4つの場面を、いかにして区分するかというトレーニングが不可欠であった。

2. 研究の目的

以上のような問題意識のもと、本研究の目的を、大学生に対する体育教師教育、教職実践演習や、現職教員の経年時研修等で活用可能な、体育授業を記録するための観察法とそのカテゴリーを学習しトレーニングをするための、DVD メディア教材を作成することとした。

3. 研究の方法

(1) 研究期間1年目(平成23年度)では、すでに教育内容として観察記録法を取り入れ

ている大学に出向いたり、学会等の場でコンタクトすることによって、学生にどのような形で教授しているのか、実態調査を行った。同時に、教育実習生を受け入れている大学附属学校に赴き、体育授業の観察記録法の認知およびニーズに関するヒアリング調査を実施した。

(2)研究期間2年目(平成24年度)では、引き続き国内における実態調査を継続した。また、国外(英国)における体育授業の実態、体育教師教育の現状および体育授業観察法の認知に関する調査を実施した。さらに、現職教員に対する講習会の場において、体育授業の観察法に関する講義および映像視聴による授業記録を試行した。以上の調査および試行の結果を踏まえ、体育授業映像の収録と編集加工、DVDへの作成作業を行った。

4. 研究成果

(1)本研究におけるヒアリング調査等の結果、体育授業の観察記録法に関する認知は、特に学校教育現場において低いと考えられた。この原因には、これまでの体育教師教育において、50分フルタイムの模擬授業等が行われてくるのが少なく、学習内容として体育授業の観察法が取り入れられてこなかったことが考えられる。期間記録の4つの観察カテゴリー(インストラクション、認知的学習、運動学習、マネジメント)の定義すらわからないという教員が多かった。

(2)また、実際に、体育教師教育を行っている大学等におけるヒアリング調査の結果からも、模擬授業を実施している場合には期間記録法を含む観察記録法を併用することもあるが、カリキュラム上、観察記録法の学習

にあまり時間を割くことができないという意見が見られた。むしろ、筆者を含む研究者間で、授業観察法の学習はどのようにしたらよいだろうかといった議論に発展することも数回あった。

(3)以上のような調査結果は、体育授業を観察記録することの意義について、体育授業の存在意義にまで遡って十分な議論が必要であることを示唆している。すなわち、体育授業で保証すべき学習成果とは何かという点を定義するとともに、そのような学習成果を保証できているのかということをも反省的に振り返ることについて、教壇に立つ者として不可欠なものとして認知されるまでには、まだ少し時間がかかるように考えられた。この点が周知されなければ、体育授業を観察記録することは、単なる余計な仕事に過ぎず、学校現場に普及することは非常に困難であると予想された。

(4)これらの点を踏まえ、本研究で作成するメディア教材に含め入れる体育授業の観察記録法は、なるべく簡便な方法として、これまでに研究実績もある期間記録法に限定することとし、観察結果の活用法などを付加することとした。

(5)ここで留意すべき点は、現職教員がこなす毎日の全ての体育授業で、期間記録法を行うべきである、ということではない。例えば複数の教員が参観する管理訪問、計画訪問といった授業の際に、簡便な方法でもよいので事実としての授業記録が残されていれば、あるいは、教育実習生が行う修了授業の際に授業記録が残されていれば、あの場面はこうでしたねといった振り返りと今後の課題を導く作業(リフレクション)が可能になるとい

うといった有用性について認識を深めていくべきではないか、ということである。

(6) 以上の手続きを経て作成したプロトタイプ的なメディア教材（最終的な完成形ではない）について、教員養成大学の保健体育に関する教職科目で活用し、また現職教員を対象とした教員免許状更新講習や初任時研修でも紹介した。その結果、教育実習等で試用してみたい、自分の実際の授業を記録してみたい等の意見が見られ、受講生の興味関心はひとまず集めることができると判断した。



図1 DVDに収録されているインストラクション場面を説明するための映像の一部

(7) この DVD メディア教材を用いて期間記録法の考え方を学習した大学生の中には、実際に教育実習に赴いた際、授業者以外の実習生が、ストップウォッチを片手に期間記録を行っている姿も認められた。しかしながら、彼らのリフレクションにおいて、期間記録の結果が反映されたかなどの追跡調査を実施しなかったことから、今後の課題の1つとして実際の活用結果の検討を挙げておく。

(8) また、本研究で作成したメディア教材の有効性について、例えば他の方法と比較検討するなどの手続きは行っておらず、有効性を実証するには至っていないと考えられる。こ

の点を証明するためには、実験デザインや実験対象などを研究方法の再検討を含め、今後の課題として残された。

(9) 期間記録を行う場合のインターフェースに関する要望も見られた。近年のタブレット型 PC やスマートフォンなどで期間記録ができるのであれば、もっと使われるのではないか？という意見も見られた。今後はこのような ICT の進歩にも配慮しながら研究を続けていく必要が示唆された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

(1) 小松崎敏 (2012) 体育授業における ICT 機能のかんたん活用事例、体育科教育、査読なし、第60巻第5号、38-41.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小松崎 敏 (KOMATSUZAKI SATOSHI)

京都教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：90367912